

# オン・ザ・ボーダー

## ～国境の島の挑戦～

国境の島と呼ばれる対馬。過疎高齢化・限界集落・高い輸送コストや燃料費、そして人口減少。さらに、仏像盗難問題や外国人による土地の取得に対する否定的報道もありマイナスイメージが先行しています。現在の対馬市の人口は約33,000人。昭和30年代から半減し、平成16年の合併時から約19%の減少です。

対馬が朝鮮との交易により発展を極めた1600年代後半から1700年代前半、対馬藩の総人口も約30,000人。この時代、対馬藩は重要な政策を次々と成し遂げています。阿須川の開削(1659年)、お船江の築造(1663年)、大船越の開削(1672年)、釜山に草梁倭館の建築(1678年)、対馬地図の完成(1700年)、猪狩り(1700年)などハード・ソフト両面にわたる政策の充実ぶりには目を見張るものがあります。さらに雨森芳洲や陶山訥庵、原田三郎右衛門など、優れた人材が手腕を発揮し、対馬藩の発展に寄与した時代ともいえます。先人たちの業績には、国境の島ならではのヒントが隠されています。

地方自治体が生き残りをかけて国内都市圏に向けてアピールする時代。国内にとどまらない対馬ならではの取り組みを紹介します。

釜山

TSUSHIMA

福岡

朝鮮国信使絵巻・長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵

# 「平和の使者」朝鮮通信使を世界記憶遺産へ



江戸時代12回にわたり往来し、両国の友好の象徴でもあった朝鮮通信使。

対馬市に事務局を置く朝鮮通信使縁地連絡協議会（理事長・松原一征）は、韓国の財団法人釜山文化財団と朝鮮通信使をユネスコ記憶遺産に登録する取り組みを進めています。

文禄・慶長の役後に対馬藩の苦勞もあって日朝関係が修復され、江戸時代の約200年間に亘る平和な時代が実現し、様々な文化交流が行われました。このことに大きく寄与した朝鮮通信使の存在を全世界に知ってもらうことが目的です。

当初は国同士による共同申請をめざしていましたが、政府間の冷え込みにより困難な状況で、記憶遺産については民間等でも申請可能ということから、両民間団体による申請をする事になりました。

今年度から

特別に予算を確保し、本格的な体制づくりに着手しました。長崎県

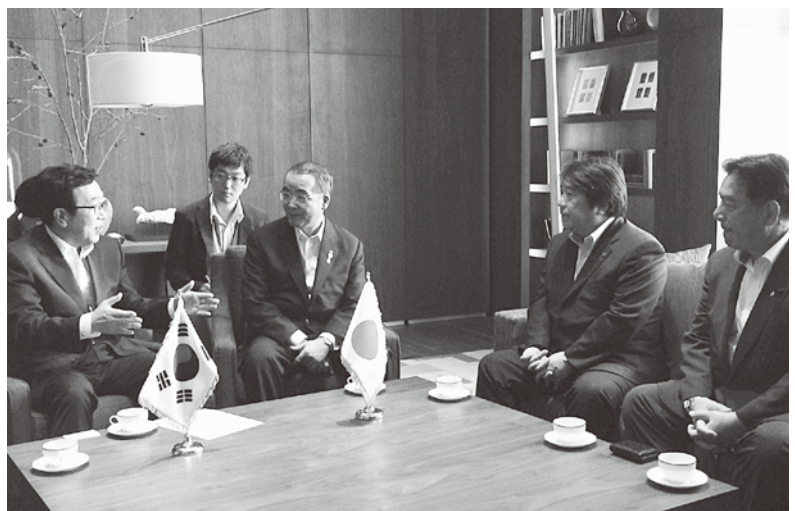
にも支援いただき、5月21日長浜市において対馬市・

吉崎市・下関市・長浜市・近江八幡市の5つの自治体による実行部隊となる「朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会」

を設立しました。その後、静岡市及び3つの民間団体が加盟し現在は9団体となっています。

また、6月23日には神戸市において学者や学芸員等9人による朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本学術委員会を設立し、申請内容の協議を重ねています。

8月25日には下関市の国際会議場において両団体の



長崎県の中村知事や財部市長・坂本県議も釜山広域市長を訪問（7月）

学術委員会及び推進部会を招集し「朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日韓共同推進会議」を開催。2016年3月に共同申請することを確認しています。

記憶遺産の申請リストの中には対馬の関係史料も登録されることが濃厚で、観光客誘致のコンテンツとしても大いに期待されています。

## 「対馬の魚に大行列」

### 釜山の展示会で水産物をPR



対馬の魚をさしみで提供

対馬から最も近い大消費地、韓国への水産物の輸出拡大を目指して、7月2日～4日に釜山で開かれた「2014釜山国際水産貿易EXPO」に、行政と民間が一体となって水産物、加工品が出展されました。世界30ヶ国より381社791ブースが揃い13,000人の人出で賑わったこのイベント。中でも対馬ブースは3日間で2,400人が訪れる盛況ぶり。対馬産のアナゴやマグロ・イカの刺身には連日長蛇の列ができ、職人による寿司の試食も好評でした。

今回の出展の成果や課題を受け、韓国市場への水産物輸出体制の構築や観光客の誘致につなげていきます。



和食の職人技も披露

## 「東アジアの架け橋に」

### 長崎県市長会を釜山で開催

長崎県内13市の市長で構成する長崎県市長会。年2回の会議を各市持ち回りで開催し、住民福祉の向上と地域発展のため、諸課題について協議・検討及び政策の要望・提案を行っています。

8月に開催された会議の開催担当市は、対馬市。

「日韓両国の現状を打開するのは、鎖国時代に『世界に開かれた窓』であった長崎県としての役割ではないか」との財部市長の提案により、初めて海を越えて韓国・釜山広域市での開催となりました。

会議では「長崎県市長会は、平和と友好の使者である朝鮮通信使にならない、幅広い分野での交流を行いながら、現代の『通信使』となつて、日韓相互の友好と発展に寄与する」ことを決議。

その後、釜山広域市を構成する16の区・郡の区庁長・郡守や釜山広域市長、釜山広域市観光協会との交流会などを行い、情報交換や今後の交流などについて協議を行いました。



## 電力の中継基地に

「地球に優しい対馬」であるために、化石燃料に頼らない新エネルギーの創出を推進し

ている対馬市。その中で、将来に向けた取り組みとして、対馬を中継基地に韓国と九州本土を「海底ケーブル」で結び、日韓いずれかで電力需要が逼迫した時に、電力を融通しあうシステムづくりが模索され始めています。

## 時代が求める対馬の役割

仏像の盗難問題に端を発し、途絶えていた厳原港まつりでの国書交換式が、この夏、2年ぶりに復活しました。残念ながら、雨のために通信使行列再現は見送られました。その通信使を日韓共同で世界記憶遺産に登録しようという動きがはじまりました。韓国と日本の芸術家によるアートイベント「対馬アートフロントアジア2014」「日韓海岸清掃フェスターN対馬」など民間ベースの交流も盛んにおこ

なわれていきます。ぎくしゃくした状態が続く日韓関係をほぐすのは、友好のかけはしを長年にわたり担ってきた対馬の役目と言えるでしょう。

歴史を振り返れば、釜山に外交館を持ち、鳥栖や基山、唐津の一部を領地として治めていたかつての対馬藩は、国境離島という地理的優位性を最大限に生かした島づくりを進めてきました。国境に接する対馬は、日本の領土であるだけでなく領海の根拠ともなり、海洋資源の保全面からも重要です。

国会では来年にも議員立法で「特定国境離島保全・振興特別措置法」が提出される予定です。対馬では、韓国への水産物輸出拡大や、海峡を越えた電力のやりとりなど新しい試みもみられます。対馬が江戸時代に果たした役割がもう一度求められているのかもしれない。

### 復活した国書交換式



8月23・24日に行われた日韓海岸清掃フェスタIN対馬

国境の島・対馬を舞台にした芸術祭

# TSUSHIMA ART FANTASIA 2014

9.27(土)～11.3(月・祝) 会場:市内各所

日本・韓国をはじめとした各国のアーティスト30組が対馬に滞在し、脈々と承継されてきた文化交流を現代アートを紹介してリバイバルします!

お問い合わせ: info@artfantasia.asia ホームページ: http://artfantasia.asia

